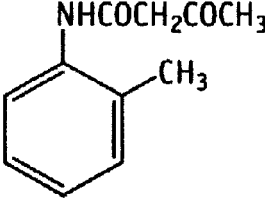


既存化学物質審査シート

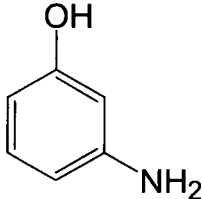
官報公示 整理番号	3-204	CAS No.	93-68-5
判定案	総合判定 人健康影響 第二種監視化学物質相当 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：o-アセトアセトトルイジド <div style="text-align: center;">  </div>		
分解性	難分解性 被験物質（o-アセトアセトトルイジド）は汚泥系において変化し、o-トルイジン（2-メチルアニリン）を生成し、被験物質とともに残留した。		
蓄積性	高濃縮性でない o-アセトアセトトルイジド及びo-トルイジンともにPow測定試験を実施した。		
Ames	陰性 純度 99.93%. 溶媒（DMSO-溶解）. TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. （本試験 I、II） -S9mix 群：5000 μg/plate +S9mix 群：5000 μg/plate		
染色体 異常	陽性 D20=5.14mg/mL（24時間処理群：構造異常） ±S9mix 処理群、24時間処理群及び48時間処理群において構造異常の誘発。 純度 99.93%. 溶媒（1%CMC-Na水溶液-溶解）. CHL/U. 5.0mg/mLまで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 -S9mix 群：5.0mg/mL（2.5 mg/mL以上で被験物質の析出） +S9mix 群：5.0mg/mL（最高用量で被験物質の析出） 24時間処理群：5.0mg/mL（細胞毒性のため2.5mg/mLまで観察） 48時間処理群：3.6mg/mL（細胞毒性のため1.8mg/mLまで観察） （確認試験） 24時間処理群：3.5mg/mL（細胞毒性のため3.0mg/mLまで観察）		
反復経口投 与毒性・生 殖発生毒性 併合試験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒：1%MC水溶液	
	純度	99.93%	
	用量	4投与群（8, 25, 80, 250mg/kg/day）	
	死亡	なし	
	NOEL	反復投与毒性：25 mg/kg/day 生殖発生毒性：250 mg/kg/day	

	<p>推定根拠</p> <p>反復投与毒性： 血液学的検査（RBC↓・MCV↑：80以上♂） 血液生化学的検査（Bil↑：80以上♂） 組織学的所見（肝－ヘモジリデン沈着：80以上♂♀ 脾－ヘモジリデン沈着・鬱血：80以上♂♀）</p> <p>生殖発生毒性： 全群で特に毒性学的影響は認められていない</p>
	<p>他の毒性</p> <p>反復投与毒性： 血液学的検査（Hgb↓・Hct↓・MCH↑・Ret↑・ハイツ小体保有赤血球数↑ ：250♂） 血液生化学的検査（K↑：250♂） 絶対重量（脾↑：250♀♂） 相対重量（脾↑：250♀♂、肝↑：250♀、下垂体↑：250♂） 組織学的検査（腎－近位尿細管上皮好酸性小体：250♂、 脾－髓外造血巣：250♀♂）</p>
	<p>回復性</p> <p>実施せず</p>
人健康影響判定根拠	<p>Ames 試験陰性、染色体異常試験は軽微な陽性であり、NOEL25mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当でない。</p> <p>当該物質は、収集された情報からは、第二種監視化学物質相当ではないが、変化物が第二種監視化学物質（告示済み）であるため総合判定として第二種監視化学物質相当。</p>
藻類生長阻害	<p>生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i></p> <p>試験法： OECD-TG201</p> <p>培養方式： 振とう培養</p> <p>試験濃度： 設定濃度 95.3、171、309、556、1000mg/L 実測濃度 92.3、160、300、539、986mg/L（時間加重平均値）</p> <p>助剤： HCO-40 100mg/L</p> <p>0-72hErC50（設定値に基づく）=751mg/L</p> <p>0-72hNOECr（設定値に基づく）=171mg/L</p>
ミジンコ急性遊泳阻害	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i></p> <p>試験法： OECD-TG202</p> <p>試験方式： 止水式</p> <p>試験濃度： 設定濃度 198、296、444、667、1000 mg/L 実測濃度 195、299、452、663、988mg/L（時間加重平均値）</p> <p>助剤： HCO-40 100mg/L</p> <p>48hEiC50（設定値に基づく）=931mg/L</p>
ミジンコ繁殖阻害	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i></p> <p>試験法： OECD-TG211</p> <p>試験方式： 半止水式、週3回換水</p> <p>試験濃度： 設定濃度 5.00、10.0、20.0、40.0、80.0mg/L 実測濃度 4.74、9.63、19.1、37.6、76.4mg/L（時間加重平均値）</p> <p>助剤： HCO-40 100mg/L</p> <p>21dNOEC（設定値に基づく）=10.0mg/L</p>

魚類急性 毒性	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、1日に2回換水 物質濃度：設定濃度 100 mg/L 実測濃度 100mg/L (時間加重平均値) 助剤：HCO-40 100mg/L 96hLC50 (設定値に基づく) >100mg/L
生態影響 判定根拠	3種の急性毒性試験から得られる最も低い毒性値が 0-72hErC50=751mg/L (藻類生長阻害試験) であり、かつミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=10.0mg/L であることから、第三種監視化学物質相当でない。 当該物質は、収集された情報からは、第三種監視化学物質相当ではないが、変化物が第三種監視化学物質相当であるため、総合判定として第三種監視化学物質相当。
備考	変化物あり

魚類急性毒性【審議済み】	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 59.3、88.9、133、200、300 mg/L 実測濃度 59.7、87.7、125、197、293mg/L（時間加重平均値） 助剤：なし 96hLC50（設定値に基づく）=151mg/L * 200、300mg/L群で全個体死亡 また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 88.9mg/L群：表層集中（96h 1/10） 体色明化（96h 3/10） 活動度の低下（96h 3/10） 133mg/L群：活動度の低下（48h 2/10、72h 8/8、96h 8/8） 体色明化（72h 3/8、96h 8/8） 200mg/L群：過敏（3h 10/10） 活動度の低下（3h 10/10、24h 9/10、48h 3/3） 表層集中（24h 3/10、48h 2/3） 嗜眠状態（24h 1/10） 筋肉痙攣（24h 10/10、48hr 1/3） 軽度平衡喪失（24h 3/10、48h 1/3） 300mg/L群：過敏（3h 10/10） 軽度平衡喪失（3h 3/10） 活動度の低下（3h 10/10、24h 6/10） 完全平衡喪失（24h 6/10） 嗜眠状態（24h 4/10） 筋肉痙攣（24h 10/10）</p>				
生態影響判定根拠	<p>ミジンコ繁殖阻害試験において21dNOEC=0.0126mg/Lであることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出限界
	水質	S51	8/68	0.14~20(μ g/L)	0.1~0.6(μ g/L)
		H10	0/39	—	0.08(μ g/L)
	底質	S51	27/68	0.002~0.013(μ g/g-dry)	0.002~0.012(μ g/g-dry)
		H10	7/36	0.0054~0.0074(μ g/g-dry)	0.0043(μ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
	その他 (大気)	S60	0/72	—	0.05~150(ng/m ³)
初期リスク評価結果(引用)※2	<p>藻類に対する毒性として ・ <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 72hEbC50=3.9mg/L 魚類に対する毒性として <i>Cyprinidae</i> 48hLC50=78.5mg/L</p>				
備考	<p>※1 S52、S61、H11版「化学物質と環境」（環境省環境保健部安全課） ※2 化学物質の環境リスク評価 第1巻（環境省環境保健部環境リスク評価室）</p>				

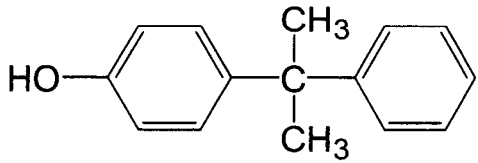
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-675	CAS No.	591-27-5
判定案	人健康影響 第二種監視化学物質相当 生態影響 第三種監視化学物質相当【審議済み】		
名称 構造式等	名 称：3-アミノフェノール <div style="text-align: center;">  </div>		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 99.7%. 溶媒 (DMSO-溶解). (本試験 I、II) TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. -S9mix 群 : 5000 μg/plate +S9mix 群 : 5000 μg/plate		
染色体 異常	陽性 D20 値=0.12 mg/mL (24 時間処理群 : 構造異常) 24 時間処理群で構造異常の誘発. 純度 99.7%. 溶媒 (局方注射用水-溶解). CHL/IU. 1.1 mg/mL (10mM) まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施. -S9mix 群 : 1.1mg/mL +S9mix 群 : 0.12mg/mL (細胞毒性のため 0.06mg/mL まで観察) 24 時間処理群 : 1.1 mg/mL (細胞毒性のため 0.14 mg/mL まで観察)		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒 : 1%CMC-Na 水溶液	
	純度	99.70%	
	用量	3 投与群 (80, 240, 720 mg/kg).	
	死亡	なし	
	NOEL	80 mg/kg/day	
推定根拠	組織学的所見 (腎-近位尿細管褐色色素沈着 : 240 以上♀・720♂)		

	他の毒性	体重↓：720♀♂ 一般状態（流涎・振戦：720♀♂） 尿検査（尿量↑：720♂♀、尿比重↓：720♀） 飲水量↑：720♀ 血液学的検査（RBC↓・Hgb↓・Ret↑：720♀） 血液生化学的検査（GPT↑・Bil↑：720♀♂、Cho↑・TG↓：720♂、 BUN↑・γ-GTP↑：720♀） 絶対重量（脾↑：720♀、甲状腺↑：720♀♂） 相対重量（脾↑：720♀、甲状腺・肝・腎↑：720♀♂、精巢↑：720♂） 組織学的所見（脾－ヘモジリデン沈着：720♂♀、 腎－近位尿細管上皮硝子滴：720♂、 肝－クッパ細胞褐色色素沈着：720♀♂、 下垂体－好塩基性細胞肥大：720♂、 甲状腺－濾胞細胞肥大：720♀♂）
	回復性	甲状腺重量↑、肝－クッパ細胞褐色色素沈着、腎－近位尿細管上皮褐色色素沈着
人健康影響判定根拠	Ames 試験は陰性であるが、染色体異常試験は陽性、NOEL 80mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当。	
藻類生長阻害【審議済み】	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 試験濃度： 設定濃度 6.25、12.5、25.0、50、100、200mg/L 実測濃度 5.69、11.5、22.9、46.1、94.2、190mg/L（時間加重平均値） 助剤： なし 0-72hErC50（設定値に基づく）=165mg/L 0-72hNOECr（設定値に基づく）=25.0mg/L	
ミジンコ急性遊泳阻害【審議済み】	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 半止水式、24 時間毎に換水 試験濃度： 設定濃度 0.102、0.256、0.640、1.60、4.0、10mg/L 実測濃度 0.103、0.252、0.637、1.64、3.99、10.5mg/L（時間加重平均値） 助剤： なし 48hEiC50（設定値に基づく）=0.447mg/L	
ミジンコ繁殖阻害【審議済み】	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 流水式 試験濃度： 設定濃度 0.0250、0.050、0.10、0.20、0.40 mg/L 実測濃度 設定値の 74.1～120% 助剤： なし 21dNOEC（設定値に基づく）=0.050mg/L	

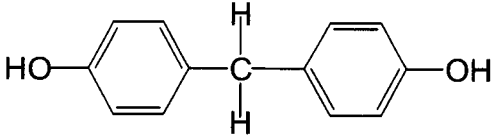
魚類急性毒性【審議済み】	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、48時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 59.3、88.9、133、200、300mg/L 実測濃度 57.3、79.9、126、190、293mg/L（時間加重平均値） 助剤：なし 96hLC50（設定値に基づく）=121mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 88.9 mg/L 群：活動度の低下（48hr 2/10、72hr 2/10、96hr 4/10） 133 mg/L 群：活動度の低下（24hr 10/10、48hr 4/4、72hr 3/3、96hr 3/3） 筋肉痙攣（24hr 10/10） 軽度平衡喪失（96hr 1/3） 200 mg/L 群：活動度の低下（24hr 3/8、48hr 2/3） 筋肉痙攣（24hr 6/8、48hr 1/3、72hr 1/1） 軽度平衡喪失（48hr 1/3、72hr 1/1） 過活動（24hr 5/8、48hr 1/3） 表層集中（24hr 4/8、48hr 1/3） 300 mg/L 群：活動度の低下（48hr 2/4） 筋肉痙攣（24hr 7/7、48hr 3/4、72hr 1/1） 軽度平衡喪失（24hr 1/7、48hr 2/4、72hr 1/1） 過活動（24hr 7/7、48hr 1/4） 表層集中（24hr 5/7、48hr 1/4、72hr 1/1） 狂奔（24hr 2/7、48hr 1/4）</p>				
生態影響判定根拠	<p>ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.447mg/L、かつミジンコ繁殖阻害試験 21dNOEC=0.050mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出限界
	水質	S61	1/27	1.1(μg/L)	0.7(μg/L)
	底質	S61	0/27	—	0.03(μg/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
初期リスク評価結果(引用)※2	<p>藻類に対する毒性として ・ <i>Chlorella pyrenoidosa</i> 72hEC50=50mg/L ミジンコに対する毒性として <i>Daphnia magna</i> 48hEC50=1.1mg/L</p>				
備考	<p>※ 1 S62 版「化学物質と環境」（環境省環境保健部安全課） ※ 2 化学物質の環境リスク評価 第2巻（環境省環境保健部環境リスク評価室）</p>				

既存化学物質審査シート

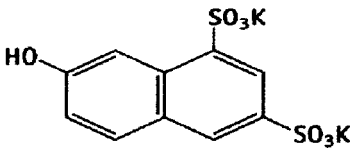
官報公示 整理番号	4-122	CAS No.	599-64-4
判定案	人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない。		
名称 構造式等	<p>名 称： 4-（1-メチル-1-フェニルエチル）フェノール</p> 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陰性 純度 99.88%. 溶媒 (DMSO-溶解). (本試験 I、II) TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. -S9mix 群：200 μg/plate (100 μg/plate 以上で菌の生育阻害) +S9mix 群：200 μg/plate (TA98, TA100, TA1535, TA1537 : 最高用量で菌の生育阻害) 400 μg/plate (WP2uvrA : 200 μg/plate 以上で菌の生育阻害)</p>		
染色体 異常	<p>陰性 純度 98.88%. 溶媒 (DMSO-溶解). CHL/IU. 2.1mg/mL (10mM) まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. (本試験) -S9mix 群：0.016 mg/mL (細胞毒性のため 0.008 mg/ mL まで観察) +S9mix 群：0.06 mg/mL (細胞毒性のため 0.03 mg/ mL まで観察) 24 時間処理群：0.04 mg/mL (細胞毒性のため 0.02 mg/ mL まで観察)</p>		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒：オリーブ油	
	純度	99.88%.	
	用量	3 投与群 (100, 300, 1000mg/kg)	
	死亡	1000♂ (3/14), 1000♀ (1/14)	
	NOEL	100 mg/kg/day	
推定根拠	<p>尿検査 (尿量↑・尿比重↓：300 以上♀・1000♂、尿沈渣：300 以上♀♂) 一般状態 (飲水量↑：300 以上♀♂) 相対重量 (肝↑：300 以上♂・1000♀) 組織学的所見 (腎-尿管上皮再生：300 以上♂・1000♀)</p>		

	他の毒性	<p>体重↓：1000♂ 一般状態（軟便：1000♀♂） 血液学的検査（WBC↑：1000♂、Plt↑：1000♀♂、APTT↑：1000♀） 血液生化学的検査（Alb↓・A/G↓・TG↑：1000♀、 GPT↑・ALP↑・γ-GTP↑・Pi↑：1000♀♂、 TP↑・Bil↑・Glu↓・Cho↑・BUN↑・CRN↑・K↓・ Cl↓・Ca↑：1000♂） 絶対重量（肝↑・腎↑：1000♀♂、胸腺↓：1000♀） 相対重量（腎↑：1000♀♂、胸腺↓：1000♀、甲状腺↑：1000♂） 組織学的所見（胃－前胃境界縁のびらん・扁平上皮過形成：1000♀♂、 肝－胆管増生：1000♀♂、 腎－腎尿細管拡張・顆粒円柱・皮質リッ^o球浸潤・腎乳頭好中球浸 潤集合管上皮再生：1000♀♂）</p>
	回復性	<p>飲水量・尿量↑、尿比重↓、腎臓重量↑、腎臓－腎尿細管拡張・顆粒円柱・皮質リッ^o球浸潤・尿細管上皮再生・集合管上皮再生</p>
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、NOEL 100 mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当でない。	
備考		

既存化学物質審査シート

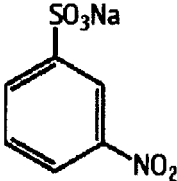
官報公示 整理番号	7-903	CAS No.	1333-16-0
判定案	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：メチレンジフェノール（ビスフェノールF） 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 99.0%、溶媒（DMSO-溶解）. （本試験 I、II） TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. -S9mix 群：1250 μg/plate（最高用量で菌の生育阻害） +S9mix 群：1250 μg/plate（TA100, TA1535, TA1537：最高用量で菌の生育阻害） 2500 μg/plate（TA98：最高用量で菌の生育阻害） 5000 μg/plate（WP2 uvrA：2500 μg/plate 以上で菌の生育阻害）		
染色体 異常	陽性 D20=0.010 mg/mL（+S9mix 群：構造異常）. ±S9mix 群で構造異常の誘発。 純度 99.0%、溶媒（DMSO-溶解）. CHL/1U. 2.0 mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 -S9mix 群：0.18 mg/mL（細胞毒性のため 0.09 mg/mL まで観察） +S9mix 群：0.018 mg/mL（細胞毒性のため 0.009 mg/mL まで観察） 24 時間処理群：0.12 mg/mL（細胞毒性のため 0.06 mg/mL まで観察）		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒：0.1%Tween80 添加 0.5%CMC-Na 水溶液	
	純度	99.0 %	
	用量	4 投与群（8, 40, 200, 1000 mg/kg）	
	死亡	1000 ♀（1/12）	
	NOEL	8 mg/kg/day	
	推定根拠	血液生化学的検査（Cho ↓：40 以上 ♀・1000 ♂）	
	他の毒性	体重 ↓：1000 ♂ 血液生化学的検査（γ-GTP ↑・Glu ↓：1000 ♀） 絶対重量（肝 ↑：1000 ♀） 相対重量（肝 ↑：200 以上 ♀・1000 ♂、副腎 ↑：200 以上 ♀） 組織学的所見（胃-前胃粘膜過形成・境界線過形成・前胃潰瘍：1000 ♀ ♂、 肝-小葉中心性肝細胞肥大：200 以上 ♀ ♂）	
回復性	肝重量 ↑、副腎重量 ↑、肝-小葉中心性肝細胞肥大		
人健康影 響判定根 拠	Ames 試験は陰性であるが、染色体異常試験は陽性、NOEL 8 mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当。		
備考			

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-498	CAS No.	842-18-2
判定案	人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない。		
名称 構造式等	名称： 7-ヒドロキシ-1, 3-ナフタレンジスルホン酸カリウム 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 89.2%. 溶媒 (局方注射用水-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. (本試験 I, II) -S9mix 群: 5000 μg/plate +S9mix 群: 5000 μg/plate (追加試験) TA1535 -S9mix 群: 500 μg/plate		
染色体 異常	陰性 純度 89.2%. 溶媒 (注射用蒸留水-溶解). CHL/1U. 3.8mg/mL (10mM) まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. -S9mix 群: 3.8 mg/mL +S9mix 群: 3.8 mg/mL 24 時間処理群: 3.8 mg/mL 48 時間処理群: 3.8 mg/mL		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒: 1%カルメロースナトリウム水溶液	
	純度	89.2%	
	用量	3 投与群 (100,300,1000 mg/kg)	
	死亡	対照群♂ (1/14)事故による	
	NOEL	100 mg/kg/day	
	推定根拠	血液生化学的検査 (Cho ↓ : 300 以上♀)	
	他の毒性	血液学的検査 (Hct ↑ · Hgb ↑ : 1000♀) 絶対重量 (脾 ↓ : 1000♂) 相対重量 (脾 ↓ : 1000♂)	
回復性	脾臓重量 ↓		
人健康影 響判定根 拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、NOEL 100 mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当でない。		
備考			

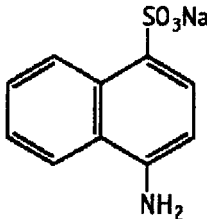
	他の毒性	体重↓：1000♀♂ 一般状態（歩行失調また腹臥位：1000♀♂） 尿検査（尿量↑：1000♂、尿 pH↓：1000♀、尿中 Bil↑：1000♀♂） 血液学的検査（RBC↓・Hgb↓・Hct↓：1000♀） 血液生化学的検査（Alb↓：1000♂） 絶対重量（脾↑：1000♀） 相対重量（脾↑・肝↑：1000♀） 組織学的検査（肝－小葉中心性肝細胞肥大：1000♀♂ 脾－髓外造血：1000♀ 脾－ヘモジリデン沈着，静脈洞拡張：1000♀♂ 胃－前胃の扁平上皮びまん性過形成：1000♀♂）
	回復性	体重↓、脾重量↑、組織学的検査（胃－前胃の扁平上皮びまん性過形成）
人健康影響判定根拠	Ames 試験は陰性であるが、染色体異常試験は陽性、NOEL 100 mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当。	
備考		

既存化学物質審査シート

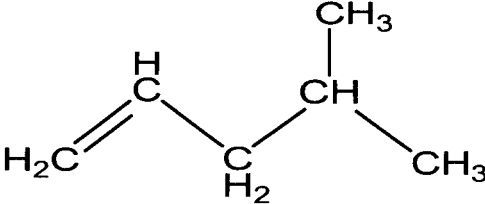
官報公示 整理番号	3-2006	CAS No.	127-68-4		
判定案	人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない。				
名称 構造式等	名称： 3-ニトロベンゼンスルホン酸ナトリウム 				
分解性	難分解性				
蓄積性	高濃縮性でない				
Ames	陰性 純度 98.8%. 溶媒 (蒸留水-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. 5000 μg/plate まで実施した用量設定試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. -S9mix 群：5000 μg/plate +S9mix 群：5000 μg/plate				
染色体 異常	陰性 純度 98.8%. 溶媒 (生理食塩液-溶解). CHL/U. 5.0 mg/mL まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. -S9mix 群：5.0 mg/mL +S9mix 群：5.0 mg/mL 24 時間処理群：5.0 mg/mL 48 時間処理群：5.0 mg/mL				
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒：注射用水			
	純度	98.8%			
	用量	3 投与群(100, 300, 1000 mg/kg/day)			
	死亡	なし			
	NOEL	1000 mg/kg/day			
	推定根拠	全群で特に毒性学的影響は認められていない			
	他の毒性 回復性	問題なし			
人健康影 響判定根 拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、NOEL 1000 mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当ではない。				
環境調査 ※ 1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S52	0/6	—	6.6~10(μg/L)
	底質	S52	0/6	—	0.5~0.78(μg/g-dry)
	魚類	—	—	—	—

備考	1 S53 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部安全課)
----	-------------------------------

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-492	CAS No.	130-13-2
判定案	人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない。		
名称 構造式等	名称： 4-アミノ-1-ナフトレンスルホン酸ナトリウム 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 76.1%. 溶媒 (注射用水-溶解). *純度換算あり (本試験 I、II) TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. -S9mix 群 : 5000 μg/plate* +S9mix 群 : 5000 μg/plate*		
染色体 異常	陰性 純度 76.1%. 溶媒 (生理食塩液-溶解). CHL/IU. *純度換算あり 5.0 mg/mL まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. -S9mix 群 : 5.0 mg/mL* +S9mix 群 : 5.0 mg/mL* 24 時間処理群 : 5.0 mg/mL* 48 時間処理群 : 5.0 mg/mL* (確認試験) 48 時間処理群 : 5.0mg/mL*		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒 : 注射用水	
	純度	76.1%	
	用量	3 投与量(100, 300, 1000 mg/kg/day)	
	死亡	なし	
	NOEL	1000 mg/kg/day	
	推定根拠	特に毒性学的影響は認められていない	
	他の毒性	-	
回復性	問題なし		
人健康影 響判定根 拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、NOEL 1000mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当ではない。		
備考			

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-22	CAS No.	691-37-2
判定案	生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質相当に該当するとは判断されな い。		
名称 構造式等	名 称：4-メチル-1-ペンテン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない(今回審議物質、事務局判定案)		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養（密閉系） 試験濃度： 設定濃度 0.120mg/L 実測濃度 0.0074mg/L(幾何平均値) 助剤： N,N-ジメチルホルムアミド 100 μ L/L 0-72hErC50（実測値に基づく） >0.0074mg/L 0-72hNOECr（実測値に基づく） =0.0074mg/L（最高濃度では影響が認められなかった）		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 半止水式、24時間毎に換水 試験濃度： 設定濃度 0.120mg/L 実測濃度 0.0815mg/L（幾何平均値） 助剤： ジメチルホルムアミド 100 μ L/L 48hEiC50（実測値に基づく） >0.0815mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、毎日換水 試験濃度： 設定濃度 0.150 mg/L 実測濃度 0.0983mg/L（時間加重平均値） 助剤： ジメチルホルムアミド 100 μ L/L 21dNOEC（実測値に基づく） =0.0983mg/L（最高濃度では影響が認められなかった）		
魚類急性 毒性	生物種： ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法： OECD-TG203 試験方式： 半止水式、24時間毎に換水 物質濃度： 設定濃度 0.120 mg/L 実測濃度 0.0764mg/L（幾何平均値） 助剤： ジメチルホルムアミド 100 μ L/L 96hLC50（実測値に基づく） >0.0764mg/L		

生態影響 判定根拠	3種の急性毒性試験及びミジンコ繁殖阻害試験において、溶解限度で影響が認められないことから、第三種監視化学物質相当でない。
備考	